カテーテル室の看護体制と問題改善の取り組み

○中山美恵子　浜崎英代　西村操子　藤本みどり　永村哲彦　佐藤洋一　藤井謙司

(医) 桜橋渡辺病院・看護婦

「目的」心臓カテーテル室（以後カテ室）は、医師をはじめ多くのコ・メディカルが協力し合い働いている場所である。それだけに、緊急症例等の場合には、対応の如何により救命を左右することも少なくない。当院のカテ室の看護職員は、2年毎にローテーションで交代していくという状況があり、看護体制、技術・質の向上の面で課題がある。今回、平成6年より当院で行ってきた教育及び看護体制の取り組みを見直し、さらに改善するべき問題を把握するため、カテ室看護職員の教育参加状況と、それに対する責任者配属の効果を検討した。また、カテ室で働く職員にアンケート調査を行い、今まで行ってきた業務体制の評価と現在の問題点を明らかにすることを試みた。

「方法」調査期間は、平成 6 年4月より平成 13 年 8 月末日までで、その間のコ・メディカルの職種毎の業務分担をカテーテル室の体制と看護職員の院内教育参加率を検討した。また、カテ室に関わっている医師、看護婦、放射線技師、臨床工学士、検査技師、看護助手へ質問紙法によるアンケートを行い、解析した。「結果」H12 年よりカテ室の看護職員の所属部署である外来系に副看護部長を設置、H13 年より種々の職種により構成したカテ運営会議の発足、医療材料の請求方法を伝票に記載する方法からバーコードラベル貼付方式への変更、造影画像のシネフイルムでの保管からシネレスへの変更を行ってきた。その結果、1、年間の院内教育参加率をみると、婦長、主任等の役職責任者を配置していない期間は参加率が低下していた。一方、子供がまだ小さい夜勤が出来ない等、同じ条件の職員を抱える外来部門では、婦長、主任を常時配置しており、出席率は高かった。2、アンケートは 42 名に配布、回収 32 名（回収率 74%）医師 35%、看護職員及び他 100%であった。①コ・メデイカルの現行の業務内容の分担について、［適当］［まあ適当］を合わせると 88%であった。［適当でない］は 12%で、理由は圧ラインの管理を看護婦もするべき、清掃は NS,助手以外の職種もするべきである等であった。②人員配置について、［適当］［まあ適当］は 72%、［適当でない］28%であった。［適当でない］の理由は、看護婦が少なく余裕が無い、カテ件数の増加、内容が難しくなっているをあげ、医師からは看護職員は夜間の緊急の呼び出しにも対応するべきと述べている。一方、カテ件数、カテ 2 室、他の職種との比較からみて現行の看護職員が多いという意見もあった。③体制の変化による改善点は、医師と他の職員の協力体制が整いだした、物品の整理で無駄な動きが少なくなった等であった。しかし特に変化無いという意見もあった。「結論」効果的な責任者の配置は教育プログラムへの参加率、知識、技術を向上させ、職業意識を上げるうえで効果がある。職種間の業務内容の整備と協力体制の必要性を認識し、どのように工夫するかが今後の課題である。